

養魚池で邪魔者扱いをされているムサシモが根こそぎ除去はされまいから当分は生存してくれるであろう。一応多産を報告しておきたい。(1981・9・20)

人で本会会員でもある野口達也氏らによって水草も精力的に採集されており、いろいろ参考になるものとなっている。(角野康郎)

書評

田高昭二著「小川原湖の自然」(東奥日報社刊, 昭和53年10月, 329p, 1,100円)

小川原湖の生いたちに始まって、湖岸及び湖中の生物たちが紹介されている。この種の本には歳時記風に植物を紹介して終わるものが多いが、この本は、著者の長年にわたる研究に裏付けられた立派な自然誌である。

。「霞ヶ浦の生物」(建設省関東地方建設局霞ヶ浦工事事務所発行, 昭和55年3月, 174P, 非売品)

霞ヶ浦の生物がプランクトン, 底生生物, 水生植物, 魚類, 鳥類に分けて紹介されている。水生植物は信州大学の桜井善雄助教授が担当されている。第2章「概要」では水生植物のはたらきや, 湖水の汚濁による最近の変化などが概説され, 第3章「霞ヶ浦の生物」では63種(湿生植物含む)が簡単な解説とともに挙げられている。そして, その全ての種について, 実に美しいカラー写真が載せられている。なお, この写真中, 「25-a ヒルムシロ」はササバモの浮葉型, 「45-a, b ササエビモ」はオオササエビモではないかと思う。

。鈴木昌友, 他7名著「茨城県植物誌」(茨城県植物誌刊行会, 1981年9月, 339P)

関東地方北部から東北地方南部にかけては, 水草の植物地理を考える上で重要な地域である。その意味でも, 茨城県できわめて内容のしっかりした植物誌が出たことは喜ばしい。前半で地域ごとにフローラを概観し, 後半がシダ類以上の植物リストになっている。植物の産地は, メモや記憶によってではなく標本によって記録されているので(これは今では常識とならねばならないことだが), 今後, 研究を進めてゆこうとする者は大変助かる(標本がなければ疑問が生じたとき調べようがないし, 引用したくとも引用できない)。

現在, 各地で出ている植物誌の類はかなりの数にのぼるが, 水草に関する限り, 調査が不十分であったり, 同定が不正確であったりして得心のゆかないものが多い。しかし, 「茨城県植物誌」の完成にあたっては, 著者の一

訃報 英 清道氏(東京都)

昭和56年10月21日, 心不全にて急逝されました。享年51歳。ここに謹んで御冥福をお祈りします。

故人は, 北里研究所附属東洋医学総合研究所基礎研究部長(医博)の要職にあられ, 水草や食虫植物をライフワークとして御活躍でしたがまことに残念, 哀惜の限りでございます。 会長

【編集後記】

いよいよ年の瀬も押し寄せまってきました。水草研究会の方は, 目標どおり年4回発行が果たせました。これも会員皆様方の協力のお陰と感謝しています。今年の編集のことをふりかえってみますと, 毎回, 予定よりも遅れ気味に作業が進んだため, ゆっくり時間をかけることができず, いくつも心残りになったことがあります。しかし, 総合的評価(?)をすれば, 1年あまりでここまで来れたのだから良しとしようという実感です。

来年度は, 予算の許す範囲で増ページも考え, 内容の充実をはかってゆきたいと思いますので, 積極的な御投稿をお待ちします。なお, 余裕をもって編集を進めるため原稿締切日を, 少し早くさせていただきます。

原稿の送り先 〒657 神戸市灘区鶴甲1-2-1
神戸大学教養部 角野康郎宛

No.7 発行予定 3月(原稿締切1月31日)

【No.5 訂正】

P1左8行目 Lamarackiana→Lamarckiana
P2左1 " 清原 全→清原 金
P13右6 " Imhori→Imahori

水草研究会会報 No.6 (1981年12月)

(Bulletin of Water Plant Society, Japan)

発行 水草研究会(〒123 東京都足立区梅田3-26-28 大滝末男気付)

印刷 中村印刷株式会社(神戸市灘区友田町3-2-3)